

東京五輪招致の実現に向けて(3) パラリンピックを日本で

スポーツが紡ぐ絆

最多メダリスト、河合純一

全盲の河合純一は、バルセロナ大会を皮切りにロンドン大会まで、6回連続出場スマーだ。獲得したメダルは、21個。日本のパラリンピック選手で、最多メダリスト。アトランタ、シドニー、アテネでは、3連覇を成し遂げている。ロンドンでも決勝まで進出したが、4位に終わった。



写真提供…朝日新聞 2008年
9月18日(木) 写真・林敏行

世界の流れ、スポーツへ

2008年の北京大会で4連覇を逃し、それでも銀を獲得し

た後の記者会見での発言には、世界の流れはもはや福祉的なりハビリではなくスポーツに舵が切られている、このままでは日本は世界に勝てない、そんな焦りがにじみ出ていた。日本におけるパラリンピックの在り方を何とかしなければ、という強い思いが感じられた。

国政参加に舵を切る

河合純一は、早稲田大学卒業後、浜松市の母校に赴任。2008年からは静岡県総合教育センターの指導主事に。練習は、夜の8時ころからしかできなかつた。

河合純一は、国政参加に舵を切った。2010年7月に行われた参議院選にみんなの党から出馬したが、落選。

河合純一は、国政参加の動機をこう語る。

スポーツを通して、障害者や高齢者も一緒に交わられる絆を
実感できるコミュニケーション形成と
教育や福祉に貢献したい、と。



河合純一プロフィール

- 生年月日：昭和50年4月19日(38歳)
 - 1990年 15歳のとき全盲となる
 - 1992年 バルセロナパラリンピック(銀2、銅3)
 - 1996年 アトランタパラリンピック(金2、銀1、銅1)
 - 1998年 早稲田大学教育学部卒業
舞阪中学校に教師に着任
 - 2000年 シドニーパラリンピック(金2、銀3)
 - 2004年 アテネパラリンピック(金1、銀2、銅2)
 - 2008年 静岡県総合教育センター指導主事に着任
北京パラリンピック(銀1、銅1)
 - 2012年 ロンドンパラリンピック(二種目入賞 4位、6位)
- ホームページ: <http://your-kawai.net/wp/>
Tel: 053-597-3100 【河合純一 オフィシャルサイトから抜粋】

音で世界を識る人たちがいます！

あなたの周りの見えない・見えにくい人に、JBSのことを教えてあげてください。
JBS日本福祉放送は、視覚に障害をもつ人びとの“目のかわり”をするためのラジオです。

連絡先 電話 06-4801-7400 FAX 06-4801-7401
ホームページ <http://www.jbs.or.jp> E-mail studio@jbs.or.jp

ボランティア活動の支援情報

音訳研修会のご案内

JBS音訳研修会を下記の日程で開催します。参加を希望される方は、JBSスタッフまでご連絡ください。

※第1回参加申込締切5月7日

なお、この研修会は、社会福祉事業研究開発基金の助成事業として実施します。

日時—第1回 5月29日(水)

第2回 7月24日(水)

第3回 9月25日(水)

場所—ドーンセンター

定員—36名(先着順)

講師—恵美三紀子(音訳指導者)

受講料—無料

時間—午後1時から5時

内容

❖1回目

視覚障害者が求める読み

(音訳者にとって必要な基礎知識・基礎技術)

❖2回目

読み方、図・表などの処理

❖3回目

(実技)

❖3回目

新聞の音訳

(実技。実際の放送のよう

に記事を読む)



減災・防災

東日本大震災

情報支援、2年経過

JBS日本福祉放送では、3・11から2年間、岩手県沿岸部のボランティアグループと共に被災地の視覚障害者に対して情報支援を継続するために、音訳スキルアップの研修会を実施してきています。

山田町は、3・11で壊滅状態となり、当時のボランティアグループの代表も犠牲になり、会の存続も危ぶまれました。5ヶ月が過ぎた頃、メンバーが集まり、今後の方針について協議。

「利用者が私たちを待っている」との思いから音訳活動を再開。現在、会員は10名、利用者が9名。

今回は、赤い羽根の「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」助成事業として、山田町で下記の通り実施させていただきました。

日時—3月24日(日)
会場—山田町中央公民館

参加者—山田町朗読ボランティア
大槌町のボランティア

「そよかせ」

それぞれのメンバー約

12人

内容—音訳技術およびデジタル録音

障害者と就労

視覚障害者を対象に

就労支援、スタート

4月から、視覚障害者に特化した就労支援事業所「ジョブトレーニングセンターOSAKA」が開所した。障害者総合福祉法の就労移行支援事業法に基づく障害者の就労支援を目的とする事業所である。ほとんどの事業者が知的障害者や精神障害者を対象にしている中で視覚障害者に特化した支援事業所は珍しい。

視覚障害者団体の「きんきビジョンサポート」を手伝いながら見えない・見えにくい人々と付き合っているうちに、視覚に障害を持つ人たちが就労問題の狭間にいることに気付いた。そして、隙間を埋めたい、と思った。そう語るのは、ジョブトレーニングセンターOSAKA

の開所に友人と共に踏み切った名富康晃さん(39)。

名富さん達の支援の特徴は、

あらかじめ障害者の雇用を希望している企業のニーズを聞き、就労の際に即戦力になる実践的なトレーニングだ。障害者の雇用を希望する企業は、現在、直接には3社、ハローワークの紹介では40社ある。一方、訓練に入っている視覚障害者は3人。4月中には5人に増える予定。20人が問い合わせをしてきている。

来春には、最初の就労者を世に送り出したい、と意欲を見せる名富さん。

電話06-6339-3639



写真：視覚障害者の雇用促進に取り組む名富康晃さん。大阪府吹田市の同センター内で撮影。

編集後記 スポーツ・教育・福祉をテーマに貢献したいという河合純一さん。いずれも河合さんの経験豊富な分野。

得意分野にきつと新風を吹き込んでくれるでしょう。(川越)